

# KDprintコンバート PDFHSPDF

PDF データを編集し、PDF データへ変換  
PDFMGPDF の簡易・高速版



Kernel Computer System  
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部  
〒221-0056  
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル  
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501  
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

## 特長

- ・フォルダ内の PDF データをまとめて一括変換することが可能。
- ・複数の PDF データを 1 つに合成が可能。
- ・PDF データにページ番号や任意文字列を合成することが可能。
- ・PDF データにセキュリティ機能(全保護、印刷保護、変更保護など)が設定可能。
- ・イメージデータを任意の位置に貼り付けることが可能。
- ・PDF にテキストを合成可能。
- ・セキュリティを解除して編集する機能。また、編集後に元と同じセキュリティを再設定可能。
- ・変換エラーのときに入力ファイルを指定フォルダに移動もしくはコピーをする機能。
- ・イメージやテキストを透かしとして合成。(要 Acrobat6.0 以降)
- ・テキストやイメージ合成時に、Web へのリンクを作成可能。

## PDFMGPDF との違い

- ・PDFHSPDF は、PDFMGPDF の簡易・高速編集版として機能を限定した製品です。
- ・PDFMGPDF では、1 つの機能毎に Acrobat を起動/終了しており、複数の機能を同時に使用した場合は、Acrobat が複数回起動されるため、速度低下の原因になっています。  
Acrobat7.0 以降を使用する場合は、Acrobat の仕様上の問題で、特に遅くなっています。  
PDFHSPDF は、実行毎に Acrobat を起動/終了するようにしており、複数の機能を使用したときに、PDFMGPDF よりも早く終了することが可能です。  
(例) PDF の合成+画像の合成を行った場合。  
PDFMGPDF …… 開始 → Acrobat 起動 [PDF 合成] 終了 → Acrobat 起動 [画像合成] 終了 → PDFMGPDF 終了  
PDFHSPDF …… 開始 → Acrobat 起動 [PDF 合成] [画像合成] 終了 → PDFHSPDF 終了
- ・Acrobat の起動回数を 1 回にすることで速度向上を行っているため、1 つの機能のみを実行した場合は、PDFMGPDF との速度差はありません。また、Acrobat6.0 以前を使用する場合は、Acrobat7.0 以降を使用したときと比べて PDFMGPDF との速度差は小さくなります。

## 動作環境

Windows 2000/XP/Vista/server 2003/server 2008/7

※ただし、ご利用になる Adobe Acrobat の対応 OS に依存します。

(注) Adobe Acrobat5.0 以降の製品が既にインストールされている必要があります。

## 標準価格

製品名	価格(税抜き)
PDFHSPDF	20 万円

## オプションソフト

製品名	製品概要	価格(税抜き)
KDCONV_DIR (階層構造一括変換)	階層構造の各フォルダ内に散らばっている必要なファイルを拡張子で指定し、下層フォルダまで一括変換します。	15 万円

## 操作方法

PDFHSPDF は、コマンドラインアプリケーションです。通常のコマンドと同じようにコマンドラインから実行することや、バッチファイルに組み込むことができます。

「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します。変換時にオプションを指定することや、属性データ変換パラメーターファイルの内容を変更することで種々な変換処理が可能となります。

変換を実行するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
PDFHSPDF 入力ファイル -0 出力ファイル -各オプション
```

### [操作例]

2 つの PDF ファイル(in\_dat1.pdf, in\_dat2.pdf) を合成し、「outfile.pdf」として出力します。

```
A> PDFHSPDF in_dat1.pdf in_dat2.pdf -0outfile.pdf
```

```
PDFHSPDF 実行中
```

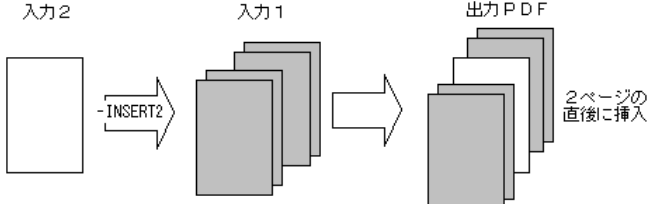
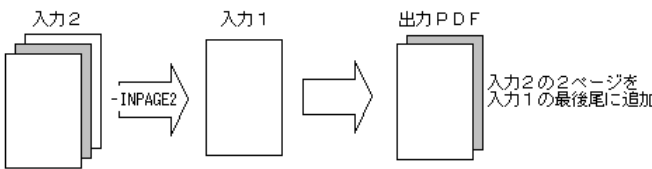
```
PDFHSPDF 実行終了
```

※オプション指定は大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。

※オプションの詳細についてはオプションの項目を参照ください。

※PDFHSPDF 実行時に Acrobat が既に起動している場合は動作をしません。

## 実行時のオプション

- 0 : 編集後の PDF 出力ファイル名
- INSERT[ページ番号] : 挿入先 PDF データのページ番号を設定します。  
設定したページ番号の直後に挿入します。
- ページ番号の指定が無いとき、このオプションを指定しないとき、ページ番号に「-1」を指定したときは最終ページとみなします。  
また、ページ番号に「0」を指定したときは先頭ページに挿入します。
- (例) -INSERT に 2 を指定して実行
- 
- INPAGE[ページ番号] : 挿入する PDF データのページ番号・ページ範囲を設定します。  
このオプションを指定しないときは、全ページを挿入します。
- (例)
- INPAGE1 ... 1 ページのみ指定
  - INPAGE2- ... 2 ページ以降を指定
  - INPAGE1-3 ... 1~3 ページを指定
- (例) -INPAGE に 2 を指定して実行
- 
- DELPAGE[ページ番号] : 削除したいページを指定。  
ページを削除したいときに設定します。
- DELPAGE1 ... 1 ページのみ削除
  - DELPAGE2- ... 2 ページ以降を削除
  - IDELPAGE1-3 ... 1~3 ページを削除
- Z[out\_atr\_file] : 属性ファイル名  
セキュリティ等を設定したいときに利用します。
- TXT[ファイル名] : 合成したい TEXT 設定ファイル名  
テキストデータを合成したいときに指定します。
- IMG[ファイル名] : イメージ設定ファイル名  
イメージを貼り付けたいときに指定します。
- M : PDF データを合成するとき、既存の PDF ファイルに重ねて(後のページに追加)出力するとき指定します。  
複数のデータを重ねて保存したいときは次の様に指定します。
- ```
> PDFHSPDF A1 -oW.pdf
> PDFHSPDF A2 -oW.pdf -M
> PDFHSPDF A3 -oW.pdf -M
```
- A1, A2, A3 データが W.pdf ファイルにまとめられて (別ページ) 作成されます。

- MG\_LIST[list\_file] : list\_file 内で指定された PDF ファイルを、指定順に連続合成します。
- 制限事項**
- ・ list\_file 内で指定された PDF ファイルを、指定順に連続合成します。
  - ・ list\_file 内で指定するファイル名称は、1 行につき 1 ファイル名をフルパスで記述します。指定可能な最大ファイル数は 256 ファイルです。
  - ・ 入力ファイルが 2 つ指定され、かつ「-MG\_LIST」を使用した場合は、入力ファイル 1、2 を合成した後で、リスト中のファイルを合成します。
  - ・ -UNLOCK が指定してある場合は、合成する PDF のセキュリティ解除も行うことが可能です。
- R[角度] : ページを回転させます。指定できるのは「90」「180」「270」のみです。
- UNLOCK[ファイル名] : セキュリティを解除(パスワードなし、全てを許可する)します。パスワードやセキュリティのかかっている PDF を編集する場合に指定します。ただし、入力ファイル 1 のみ有効になります。ファイル名にパスワードを記述してあるファイルを指定してください。Acrobat7.0 以降の添付ファイルを開くためのパスワードが設定されている場合は対応できません。
- AUTOSEC : -UNLOCK 使用時に有効になります。セキュリティを解除して編集した後に、再び元と同じセキュリティを設定して保存します。
- XMLLOG[ファイル名] : ログファイルを XML 形式で出力します。※閲覧には XML 対応ブラウザが必要です。
- XMLRIREKI[ファイル名] : 履歴ファイルを XML 形式で出力します。※閲覧には XML 対応ブラウザが必要です。
- LOG[ファイル名] : ログファイル名を設定します。
- RIREKI[ファイル名] : 履歴ファイル名を設定します。
- QV : PDFHSPDF のバージョン情報を出力します。
- Q : ヘルプメッセージ。
- BATCH[batch\_file] : バッチファイル名  
バッチファイルで指定されたファイル又はディレクトリ内のファイルを一括処理します。

<制限事項>

- (1) バッチファイル内で指定できるファイル名(ディレクトリを含む)は最大 255 文字までです。
- (2) ファイルでワイルドカードを指定する場合は、必ず拡張子を指定してください。
- (3) 出力コマンドは指定されたコマンドの後に出力ファイル名を付加して実行します。
- (4) ワイルドカードで指定した場合の処理されるファイルの順番はアルファベット順で処理されます。
- (5) スペースを含むファイル名を指定することはできません。

<バッチファイル作成上の注意>

- (1) バッチファイル内の項目は半角英数字で作成してください。
- (2) バッチファイルはテキスト形式で作成してください。
- (3) ファイル名の文字数についての制限はシステムに依存します。

## 使用例

例 1: PDF ファイル(in\_dat.pdf)にテキスト(文字列)を合成して、「outfile.pdf」として出力します。  
テキスト定義ファイル(sample.txt)を-TXTで指定します。

```
A> PDFHSPDF in_dat.pdf -Ooutfile.pdf -TXTsample.txt
```

```
PDFHSPDF 実行中
```

```
PDFHSPDF 実行終了
```

例 2: 2つのPDFファイル(in\_dat1.pdf, in\_dat2.pdf)を合成し、セキュリティの設定を記述した「pdf\_hs.atr」を指定し、セキュリティ付きのPDFデータ「outfile.pdf」を作成します。

```
A> PDFHSPDF in_dat1.pdf in_dat2.pdf -Ooutfile.pdf -Zpdf_hs.atr
```

```
PDFHSPDF 実行中
```

```
PDFHSPDF 実行終了
```

例 3: PDF ファイル(in\_dat1.pdf)にイメージを貼り付けて「outfile.pdf」として出力します。  
イメージ情報ファイル(image.txt)を-imgで指定します。

```
A> PDFHSPDF in_dat1.pdf -Ooutfile.pdf -IMGimage.txt
```

```
PDFHSPDF 実行中
```

```
PDFHSPDF 実行終了
```

## 制限事項

- ・ このプログラムを実行するには「Adobe Acrobat」の Ver 5.0 以降が必要です。「Adobe Acrobat Reader や Adobe Reader」での動作は致しません。「Adobe Acrobat X」まで対応しています。
- ・ PDFHSPDF 実行時に Adobe Acrobat や Adobe Reader が既に起動している場合は動作をしません。また、PDFHSPDF の多重起動はできません。PDFMGPDF 等、Acrobat を利用する製品との同時使用はしないでください。
- ・ PDFHSPDF が強制終了された場合、Adobe Acrobat のタスクが残ったままになる場合があります。そのまま連続して PDFHSPDF を実行すると Adobe Acrobat が既に起動されている状態になり、PDFHSPDF が実行できません。その場合は Adobe Acrobat のタスクを終了後に実行してください。
- ・ Windows の OS を長時間(数ヶ月単位)再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用される全てのソフト・ドライバーの複合要因であり発生した場合、原因の特定及び回避は全てのアプリケーションが関係している関係で、現状では不可能です。長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生することがありますので、定期的な Windows 再起動を奨励致します。
- ・ Acrobat のバージョンが 5.0.1 の場合、TEXT の書き込みや抽出処理で全角フォントを使用すると不具合があります。その場合 Acrobat5.0.1 を Ver5.0.5 にアップデートしてください。
- ・ 文字の縦横のサイズを違う値に設定するのは未対応です。
- ・ 文字の角度を指定するのは未対応です。
- ・ PDF ファイルがセキュリティで保護されている場合は正常に処理できない場合があります。
- ・ PDF ファイルの合成をしたときに、合成する PDF にしおりがあった場合、先頭ファイルのしおりの後に合成する PDF ファイル名のしおりが作成され、そのしおりの下の階層に合成する PDF のしおりが作成されます。
- ・ Adobe Acrobat を利用して編集・保存を行いますので、正常に出力された PDF ファイルの、内部構造の内容に関しましてはサポート対象外となります。また、Adobe Acrobat の不具合が原因となるエラー等に関してもサポート対象外となります。
- ・ 何らかの原因で Adobe Acrobat との接続に失敗した場合や、Adobe Acrobat が正常に使用できない場合は正常に実行できません。
- ・ 上位バージョンのセキュリティを設定したデータは編集できません。
- ・ 添付ファイルを開くためのパスワードが設定された PDF は編集できません。また、指定された場合、PDF ファイルをオープンしたときに Acrobat のパスワード入力ダイアログが出て PDFHSPDF の処理が中断されてしまいますので、添付ファイルを開くためのパスワード付きの PDF は使用しないでください。
- ・ ネットワーク上やサービスからの実行には対応していません。
- ・ Adobe Acrobat を使用していない場合でも、プロセスが残っている状態では動作致しません。プロセスを終了した後、実行してください。IE 等のブラウザを使用して PDF を開いた場合は、ブラウザを閉じて Acrobat のプロセスが残っていますのでご注意ください。
- ・ 実行環境や PDF データにつきましては、日本語環境のみ対応しております。

- ・イメージ合成で対応するフォーマットは以下の通りです。ただし、イメージのフォーマットが判定できなかった場合は正常に合成されません。
  - ・TIFF (非圧縮, Packbits, JPEG, CCITT-1D, MMR, MR, MH, LZW)
  - ・Sun ラスター (非圧縮, RLE, MMR, MR, MH) (1, 8, 24, 32 ビット)
  - ・X ラスター (非圧縮) (1, 4, 8, 16, 24, 32 ビット)
  - ・JFIF 形式の JPEG (プログレッシブ対応)
  - ・Windows Bitmap (非圧縮) (1, 4, 8, 24 ビット)
  - ・PC PaintBrush (RLC 圧縮) (1, 3, 4, 8, 24 ビット)
  - ・G3FAX (2 次元圧縮)
  - ・G3FAX (1 次元圧縮)
  - ・FAX (MH・MR)
  - ・GALS-G4 (type1, type2)
  - ・IOCA (IBM-MMR, MMR, 非圧縮)
  - ・ヘッダなしの IOCA 圧縮データ
  - ・富士ゼロックスラスター (MMR 圧縮)
  - ・EDMICS ラスター (MMR, RLC)
  - ・富士通 MIE~L (MMR 圧縮)
  - ・TOSFILE (MMR, MR, MH)
  - ・NSXPRESS (MMR, MR, MH)
  - ・X-bitmap (2 値)
  - ・GTX ラスター (G4)
  - ・FORMTEK
  - ・PNG (1~64 ビット、カラー/グレイ、プログレッシブ対応)
  - ・Portable BitMap (ASCII/バイナリ、2 値)
  - ・Portable GrayMap (ASCII/バイナリ、グレースケール)
  - ・Portable PixMap (ASCII/バイナリ、カラー)
  - ・Calcomp ラスター (2 値、IL 形式 KCMY カラー)
- ・イメージの透過には、Adobe Acrobat5.0 以降が必要となります。  
また、入力 PDF ファイルのバージョンが 1.3 以上である必要があります。
- ・出力される PDF データのバージョンについては、使用される Adobe Acrobat のバージョンに依存されます。  
PDFHSPDF の設定でバージョンを指定して出力することはできません。
- ・Acrobat 8 以降を使用する場合、PDFHSPDF 実行後にウィンドウのサイズや位置が変更される現象が発生します。また、Acrobat 8 の環境設定で、「各文書を独立したウィンドウに表示」を ON にしている状態では、PDFHSPDF 実行中に Acrobat のウィンドウが表示されますので、実行中は Acrobat を操作しないようご注意ください。
- ・1 つの機能のみを実行した場合は、PDFMGPDF との速度差はありません。また、Acrobat6.0 以前を使用する場合は、Acrobat7.0 以降を使用したときと比べて速度差は小さくなります。
- ・Acrobat7.0 以降を使用して編集を行った場合、Acrobat6.0 以前を使用した場合よりも変換時間が遅くなります。Acrobat7.0 以降では、編集処理終了後、Acrobat を開放しても、すぐにはプロセスが終了しません。プロセスが終了するまでは、次の処理を行わない仕様のため、Acrobat6.0 以前を使用した場合よりも変換速度が遅くなります。
- ・Adobe Acrobat を利用して PDF の編集を行いますので、Adobe Acrobat で正常に開けないデータや、正常に編集ができないデータに関しては、対応することはできません。
- ・「ISO-32000-1」への対応につきましては、下記の条件をみたしている必要があります。
  - ・入力ファイルが「ISO-32000-1」に準拠した PDF ファイルであること。
  - ・Adobe Acrobat 8 以降を使用。
  - ・Adobe Acrobat 9 以降を使用時、出力後の PDF のバージョンが「1.7, Extension Level x」にならないこと。
 ※256bit-AES のセキュリティや、Acrobat 9 に最適化した PDF を出力した場合は、「ISO-32000-1」準拠とはなりません。